



2 主な施策の取組状況 重点戦略1 明日へつなぐ



(1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

①-1 新規就農者の育成

○ いちご学科第一期生就農準備着々

- 次代の「いちご王国・栃木」をけん引する「いちご経営者」の育成を目的として、創設された「いちご学科」の第一期生が就農に向けて準備を進めています。
- 卒業後すぐに経営を始められるよう、学内と生産現場での実習を通して栽培技術を習得するとともに、資金調達や経営管理等について学びました。また、関係機関・団体等に相談を重ね、就農計画の作成を支援してきました。
- 今後は、就農計画の実現に向け、農業経営のスムーズなスタートと、早期の安定化を支援していきます。



学内での実習



就農準備演習

(経営技術課)

○ 新規就農者定着支援の取り組み(上都賀地域)

- 就農支援制度の充実に伴い、新たに農業に参入する新規参入者が増加傾向にあります。しかし、就農直後は経営が不安定になる場合も多いため、重点対象者を定め、新規就農者の定着を支援しました。
- 担当普及指導員による個別巡回指導の機能を強化し、情報共有を図るとともに、新規就農者リスク管理表を作成し支援しました。
- 今後も、新規就農者が確実に定着できるよう、引き続きオーダーメイド型の就農支援を展開します。



いちご新規参入者の御夫婦

(上都賀農業振興事務所)

(1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

①-2 新規就農者の育成

○ いちご、にら新規就農研修制度による園芸産地を担う人材確保(上都賀地域)

- 平成28(2016)年11月、鹿沼市がいちご市を宣言し、市が主体で平成29(2017)年度に新規就農者支援対策協議会を設立し、研修生受け入れを開始しました。
- 現在、市や農業公社、JA、農業振興事務所等で構成された実務者会議を中心に具体的な推進を行っています。
- 令和3(2021)年度までに18名の研修生を受け入れ、既に10名が就農しています。



JA広報誌 9月号

(上都賀農業振興事務所)

○ ニューファーマーカレッジをオンラインで開催(下都賀地域)

- 新型コロナウイルス感染症の影響で様々な研修会が縮小・中止となる中、新規就農者を対象とした「ニューファーマーカレッジ」をオンラインで開催しました。
- 25名のニューファーマーの皆さんが、「病害虫」(10月)、「土壌肥料」(11月)をテーマとした講習を受講しました。
- 技術と経営についての知識の習得が得られたとの声も多く、オンライン開催ではありましたが、大変好評でした。



基本技術の説明



約半数は集合研修

(下都賀農業振興事務所)

(1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

①-3 新規就農者の育成

○ JALしもつけ岩舟ぶどう生産出荷組合でマイスター制度を整備(下都賀地域)

- JALしもつけ岩舟ぶどう生産出荷組合では、新たな生産者の確保・育成に向け、産地人材育成確保事業を活用し、新規就農希望者の研修受入体制を整備しました。
- 令和4(2022)年4月から研修生1名が、マイスター研修でぶどう栽培に関する経営・技術を学び、令和5(2023)年3月に新たな仲間として生産組織に加わりました。
- 今後は、さらに就農希望者の研修受入に取り組んでいく予定です。



マイスターによる指導



組合の研修会に参加
(下都賀農業振興事務所)

○ アグリゼミの開催(塩谷南那須地域)

- 新規就農者や青年農業者、女性農業者等が、農業経営を開始・発展させるために必要な農業技術や経営に関する基礎的な知識を習得するためのセミナー「アグリゼミ」を開講しています。
- 令和4(2022)年度は座学に限らず、実演や現地視察を含め全20回開催し、受講者はのべ250名を超え、営農に対するスキルアップが図られました。
- 今後は受講者の声を聞きながらセミナー内容を改善していくとともに、受講した新規就農者等を重点的に技術指導し、経営の安定化を支援していきます。



アグリゼミ開講式



簡易土壌診断の実演
(塩谷南那須農業振興事務所)

(1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

①-4 新規就農者の育成

○ 経営技術改善セミナー(耕種部門)を開催(那須地域)

- 次代を担う青年農業者を育成するため、青年農業者自らが課題を設定しその解決を図るプロジェクトを実施しています。
- 令和4年度は、「土づくり肥料を活用した良食味米の生産」や「牛ふん堆肥施用による収量向上」をテーマに、耕種部門の成年農業者が1年間、試験・調査・分析を実施し、「米の食味が上がった」などの成果が経営技術改善セミナーで報告されました。
- 今後も、同プロジェクト等を継続して実施し、青年農業者の課題解決を支援していきます。



プロジェクト活動の様子



報告会の様子

(那須農業振興事務所)

○ 地区農業者組織の連携による青年農業者他担い手の相互研鑽(安足地域)

- 青少年クラブ協議会をはじめとする安足地域の9つの農業者組織で「地区農業者懇談会」を構成し、青少年プロジェクトや各組織活動報告、意見発表を通じて、青年農業者の育成と農業者相互の研鑽・交流を深めています。
- 令和4(2022)年11月に開催された発表会では、「高濃度炭酸ガス処理によるハダニ類防除の検証」など農業者の取組の参考となる発表をはじめ、農村生活研究グループやJA女性会等による活動報告が行われ、他組織との連携強化が図られました。



青少年プロジェクト発表



農村生活改善グループ活動発表

(安足農業振興事務所)

(1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

①-5 新規就農者の育成

○ 関係機関が一丸となり新規参入者の営農実現と地域農業維持を支援(安足地域)

- ・ 足利市三和地区(中山間地域)では、関係機関が一丸となり、遊休農地の解消に向けた、新たな担い手の確保と育成の取組を進めています。
- ・ 令和4(2022)年度は、県外からの新規参入者と畜産コントラクターとのマッチング及び分業化の提案を通して、新たにWCS用稲が導入され、営農の規模拡大と遊休農地7haの解消が図られました。
- ・ 今後も、営農相談の継続や三和地区での営農開始の斡旋により、新規参入者の育成とさらなる遊休農地解消を図っていきます。



担い手と畜産コントラクターとのマッチング



畜産コントラクターによるWCS用稲の収穫

(安足農業振興事務所)



(1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

②-1 未来へつなぐ広域営農の実現

○ とちぎ農業経営・就農支援センターが始動

- 県では、令和4(2022)年度から、就農希望者や経営面で課題を抱える農業者を支援するため「とちぎ農業経営・就農支援センター」を設置しました。
- 相談会の実施や専門家の派遣等による様々なアドバイスを行い、就農・経営開始から経営発展まで、農業経営者の現状や目標に応じた支援を実施しました。
- 今後は、支援者情報のデジタル化など、農業者の就農・経営サポートのより一層の充実を図っていく予定です。



就農サポート（相談会）



経営サポート（専門家派遣）

（経営技術課）

○ とちぎ広域営農システム構築に向けたモデル地域の取組

- 令和4(2022)年度末までに、県内に33のモデル地域が設置され、地域内で営農を継続するための様々な話合いや取組が行われています。
- 地域営農ビジョンの作成をはじめ、集落営農組織の連携・合併や企業の参入などによる新たな担い手の確保など、各地域で具体的な取組が進んでいます。
- 今後は、先行しているモデル地域の目指す姿を早期実現するとともに、事例集の活用等により、他地域でも話合いが開始できるよう支援をしていく予定です。



話合いの様子



モデル地域の事例集

（経営技術課）

(1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

②-2 未来へつなぐ広域営農の実現

○ 人・農地プランの推進に向けたファシリテーション研修会

- 人・農地プラン(地域計画)推進に向けたファシリテーション研修会を開催しました。
- 人・農地プランの実現に向け、地域の話合いの活性化や合意形成を促進するため、市町の人・農地プラン担当者や農業振興事務所担当者を対象に、全員が発言できる地域会合の開催方法や、他県の事例などを学びました。
- 今後は、人・農地プランの実現と併せ、次年度から始まる地域計画策定の取組の中で、担い手への農地集積・集約化の加速化を図っていきます。



ファシリテーション研修会

(生産振興課)

○ 宇都宮市海道地区における集落営農法人の設立(河内地域)

- 宇都宮市海道地区においては、圃場整備事業を契機として令和2年3月に「海道町集落営農組合」が設立され、町内の農地請負耕作が推進されました。その後、農地集積・集約化を図り、効率的かつ安定的な農業経営を確立するため、令和4年12月に「農事組合法人海道ファーム」が設立されました。
- 法人設立に当たり、栃木県農地バンクを通じた農地貸借が進められ、令和5年は、米・麦・そばで30haの耕作が計画されています。また、町内にはいちご団地が形成され、高収益作物の導入が図られています。



海道ファーム設立総会



設立準備委員会の様子

(河内農業振興事務所)

(1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

②-3 未来へつなぐ広域営農の実現

○ とちぎ広域営農システム構築に向けた取り組み(河内地域)

- 宇都宮市の上小倉地区では、地域担い手に農地集積・集約化を図るためのルール作りや担い手との話し合いが行われています。今後は、実効性のあるルールとして生かせるよう進めていきます。また、上田地区では、新たな集落営農組織の設立に向けて、勉強会の開催等を行っていきます。
- 上三川町上郷地区では、令和3年12月に「上郷地区農業の未来を考える会」を設置し、将来ビジョンの作成に向けた検討が行われました。今後は、地域計画に反映させた具体的な取り組みを支援していきます。



担い手との意見交換



(河内農業振興事務所)

○ ほ場整備に向けて営農検討部会設立～営農構想検討を開始～(上都賀地域)

- ほ場整備の事業化を進めている鹿沼市玉田地区、西茂呂地区及び日光市轟地区の3地区において、担い手を中心に営農検討部会を立ち上げました。
- 今年度は、企画振興部や経営普及部とともに、アンケート調査やワークショップ手法による話し合いを行うとともに、地域の実情を踏まえ、先進地を視察し、いちごやさといもの導入に向けた営農構想作りを支援しました。
- 今後とも、地域に根ざした営農構想作りを促進させ、新規ほ場整備地区を推進していきます。



海道地区を視察する
玉田地区の担い手さん



轟地区のワークショップ

(上都賀農業振興事務所)

(1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

②-4 未来へつなぐ広域営農の実現

○ 地域農業を支える仕組みづくり(集落営農組織の育成、連携・合併の推進)(芳賀地域)

- 将来に渡り芳賀地域の農業を維持していくため、農業者との話し合いにより、集落営農組織の育成等に取り組んでいます。
- 地域の話し合いの結果、茂木町では、新たな集落営農組織設立の合意がされ、益子町南部地区の5集落営農組織では、緊急事案発生時の支援料金が設定され、市貝町小貝地区の3集落営農法人では、令和6年1月を目途に統合することが決定されました。
- 今後は、圃場整備事業の計画・実施地区の2集落営農組織において、高収益作物(露地野菜)の生産から販売までの連携を進めていきます。



茂木町での集落営農勉強会



益子町南部地区連携検討会
(芳賀農業振興事務所)

○ アグリゼミに「経営管理」部門を設置(塩谷南那須地域)

- 新規就農者の経営管理能力向上を図るため、認定農業者協議会の課題解決研修等と連携した講座を新規就農者を対象としたカリキュラムに加えました。
- アグリゼミ経営管理部門では、最新のスマート農業や、販売戦略にも関わるインボイス制度について研修会を開催し、多くの農業経営者が参加しました。
- アグリゼミでは、とちぎ経営支援・就農支援センターと連携し、専門家派遣事業を活用しながら、新規就農者の経営管理を支援していきます。



経営研修会



スマート農業研修会

(塩谷南那須農業振興事務所)

(1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

②-5 未来へつなぐ広域営農の実現

○ 人・農地プランの実行に向けた活動の展開 (那須地域)

- 大田原市北滝・片田地区では、将来にわたって地域の農業が営まれるための仕組みづくりを話し合うため、地域内の各組織・団体の代表者で構成する「未来の農業を考える会」を設立しました。
- 同会では、先進事例調査、講演会等を開催して情報収集や話し合いを進めた結果、地域の農業を守るため、新たな集落営農組織の設立を目指していくことになりました。
- 今後は、勉強会等により設立に向けた準備を進めながら、地域の合意形成を図っていきます。



勉強会の様子



勉強会に向けた役員等打合せ

(那須農業振興事務所)

(1) 地域農業の持続的な発展

③-1 他業種との相互連携の強化

○ 中山間地域人材養成実践講座の開催

- 里山保全等の地域活動に取り組む地域団体の組織体制や情報発信の強化及びボランティアのスキル向上を目的に、3種類の研修を開催しました。
- 地域団体向け研修には9団体が、地域の情報発信に係る若者レポーター養成研修には10名が、ボランティア向け研修には28名が参加し、大変好評でした。
- 令和5(2023)年度は、刈払機等をより効果的に取扱うための実習の拡充や、各研修参加者間の連携が図れるようワークショップの充実等を行う予定です。



若者レポーターによる
現地取材の様子



野外活動スキルの習得に
向けたボランティア研修
(農村振興課)

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

○ 「農業も福祉も一緒に輝く！」農福連携商品PRプロジェクト開始(河内地域)

- 河内地域では、農福連携の取組が盛んに行われており、連携でできた商品に農福連携マークのシール貼付やポップ表示するなど、消費者にアピールする「農福連携商品PRプロジェクト」を実施しております。
- 令和4(2023)年度のアンケートでは、目に留まるデザインをきっかけに農福連携に興味を持ってもらい、関連商品の購買につながったという声が多数ありました。
- 今後は、商品販売の様子をSNSで情報発信・PRを行い、さらなる事業者の参加拡大に取り組んでいきます。



農福連携商品PRプロジェクト
のマーク



スーパーや直売の様子
(河内農業振興事務所)

(1) 地域農業の持続的な発展

③-2 他業種との相互連携の強化

○ 農福連携の取組強化(上都賀地域)

- 上都賀農業振興事務所は、令和3年度に作成した「農×福×苺プロジェクト」に基づき、いちご生産における農福連携の作業項目拡大に向けて支援を行っています。
- 令和4(2022)年度は、管内いちご生産者のほ場にて実践農業見学会を実施し、生産者や福祉施設、関係機関から18名が参加しました。質問や意見交換が積極的に行われ、参加者が農福連携についてより具体的なイメージを持つことに繋がりました。
- 上都賀農業振興事務所では今後、先進事例調査や、セミナーでの事例紹介などを行い、作業項目拡大を引き続き支援していきます。



質疑応答の様子



作業見学の様子

(上都賀農業振興事務所)

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

○ いちごの農福連携、作業拡大へ(芳賀地域)

- 真岡地区では、いちごの農福連携の取組に関して、生産者と福祉施設による意見交換を行っています。
- 今年度は、新たに開始した作業についての情報交換や今後、増減が見込まれる作業の見直しなどについて話し合いが行われました。
- 新規にスタートした作業について、地域内で共有、推進を図ることで、いちごに関する農福連携の更なる期間延長につながることを期待されます。



いちごの箱折り作業



育苗ポットの洗浄作業

(芳賀農業振興事務所)

(2) 意欲ある人材の参入促進

①-1 将来を担う新規就農希望者の確保

○ とちぎ就農支援サイト「tochino(トチノ)」の開設

- 農業で働く意欲のある方を呼び込むため、栃木で農業を始めるためのポイントや県内市町・関係団体の支援情報等を一元的に発信する、就農支援サイト「tochino(トチノ)」を開設しました。
- また、新規就農(雇用就農を含む)や半農半X、臨時雇用など、多様な働き方に対応したワンストップ相談窓口を栃木県農業振興公社に設置し、農業を始めたい方をサポートしています。
- 今後は、「tochino(トチノ)」のコンテンツの充実を図るとともに、関係機関・団体と連携しながらサポート体制を強化していきます。



(経営技術課)

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

○ 将来的な人材確保のためのインターンシップ等の実施

- 酪農に携わりたいと希望する県内普通科の高校生が宇都宮市の酪農家を訪れ、インターンシップに取り組みました。
- 高校生は朝夕の搾乳、牛へのエサやり、子牛の哺乳等の作業を体験しながら学び、将来の夢に向け、第一歩を踏み出しました。
- 後継者不足が問題になる中、非農家出身の方にも酪農に興味を持ってもらえるような取り組みを充実させていく予定です。



牛へのエサやりの様子



子牛への哺乳の様子

(畜産振興課)

(2) 意欲ある人材の参入促進

①-2 将来を担う新規就農希望者の確保

○ アグリトークin河内の開催(河内地域)

- 就農予定者(研修生)が、先輩農業者のほ場を視察し、意見交換を行うことにより、新規就農に向けた具体的なイメージ確立するとともに、仲間づくりと地域への定着を促すために令和3年度から開催しています。
- 令和4年度は、いちごの就農予定者に限定して開催し、当日は、(公財)宇都宮市農業公社の研修生と農業大学校いちご学科の学生の計10名が参加して、先輩農家から就農に向けてアドバイス等をいただくとともに、意見交換を図りました。
- 次年度以降も研修生と先輩農家の相互交流により、円滑な就農に向けた支援を行っていきます。



ほ場視察



意見交換
(河内農業振興事務所)

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

○ いちご、にら栽培体験会の参加者増加！ (上都賀地域)

- 新規就農者の確保に向けて、いちご、にらの定植や収穫・調整作業、先輩農業者との意見交換等を行う栽培体験会を開催しました。
- 令和4(2022)年度には4回開催し、その結果、にら体験会の参加者が増加するなど、県内外から延べ33名が参加しました。
- 引き続き関係機関と連携し、募集期間の見直しや各種HP・広報誌により周知を図り、新規就農者の確保に向けた普及活動を展開します。



鹿沼市にら収穫調整体験



日光市にら農家ほ場見学

(上都賀農業振興事務所)

(2) 意欲ある人材の参入促進

①-3 将来を担う新規就農希望者の確保

○ 日本一のいちご産地の新規就農者確保(いちご研修制度の充実・強化)(芳賀地域)

- 芳賀地域では、「いちご」の新規自営就農者が約5割を占め、就農相談件数も年々増加していることから、受入体制の充実・強化が急務となっています。
- 研修制度については、関係者による検討を重ね、市場出荷型に加え、観光農園型を新設し、県内外での就農相談会・現地見学会等の開催や移住相談等も含めたオーダーメイド型支援を実施した結果、県外居住者を含む4名が研修開始予定となり、いちごの新規参入者の確保につながりました。
- 今後も日本一のいちご産地の継続に向け、新規参入者の確保に向けた取組を充実していきます。



研修生募集チラシ



現地見学会
(芳賀農業振興事務所)

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

○ いちごの新規就農者を応援するJAおやま新規就農塾推進協議会を設立(下都賀地域)

- 新規就農者の確保と定着を促進するため、「JAおやま新規就農塾推進協議会」が設立され、PR活動や研修生の受け入れに向けた取組が始まりました。
- 就農希望者を呼び込む栽培体験会を実施し、県内外から約20名の参加がありました。また、希望者に対して審査会を実施し、1名の研修生を確保しました。
- 今後は、研修生の技術習得や農地の確保支援などを行うとともに、さらなる就農希望者の掘り起こしを継続する予定です。



協議会設立総会



栽培体験会の様子

(下都賀農業振興事務所)

(2) 意欲ある人材の参入促進

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

①-4 将来を担う新規就農希望者の確保

○ 南那須新規就農者支援対策協議会の取組（南那須地域）

- 南那須地域新規就農者支援対策協議会は、農作業体験会や農業マイスターによる研修、経営開始に向けた支援体制の整備を拡充し、安心して就農できる環境づくりを目指しています。
- 令和4年度には農外からの新規就農者1名の確保につながり、令和5年度就農に向け1名が研修中です。
- 新規就農者に対しては、技術が安定し自立した経営を営めるよう重点対象者として位置づけ、関係機関と連携した支援を継続していきます。



いちご農作業体験会



就農相談会

(塩谷南那須農業振興事務所)

○ 青年農業者の確保・育成に向けた取組が展開されています(那須地域)

- 新規就農者や新規部門開始者の育成と定着を図るため、令和5年2月、県や市町、JA等で構成する「新規就農支援協議会」を設立しました。
- 同会の構成員が連携し、高い技術力を持つ農業者の協力を得ながら、研修会等を通じて新規就農者等の定着を支援していきます。
- また、那須地域への就農希望者を確保するため、引き続き就農相談会等を実施していきます。



新規就農支援協議会設立総会



那須地域就農相談会

(那須農業振興事務所)

(2) 意欲ある人材の参入促進

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

①-5 将来を担う新規就農希望者の確保

○ 研修制度や農地、空き家の情報提供等による新規就農者の確保(安足地域)

- ・ 足利市では、新規就農者の確保に向けて、とちぎ就農支援サイト「tochino (トチノ)」を活用し、研修制度や農地、空き家などの情報をパッケージ化して提供する取組を始めました。
- ・ また、就農希望者に対しては、新規参入者から体験談を直接話してもらい、就農についてのイメージづくりを促すとともに、就農後のミスマッチを防ぐため、事前に農業士等から営農に向けた助言をいただくこととするなど、就農支援の強化を図っています。

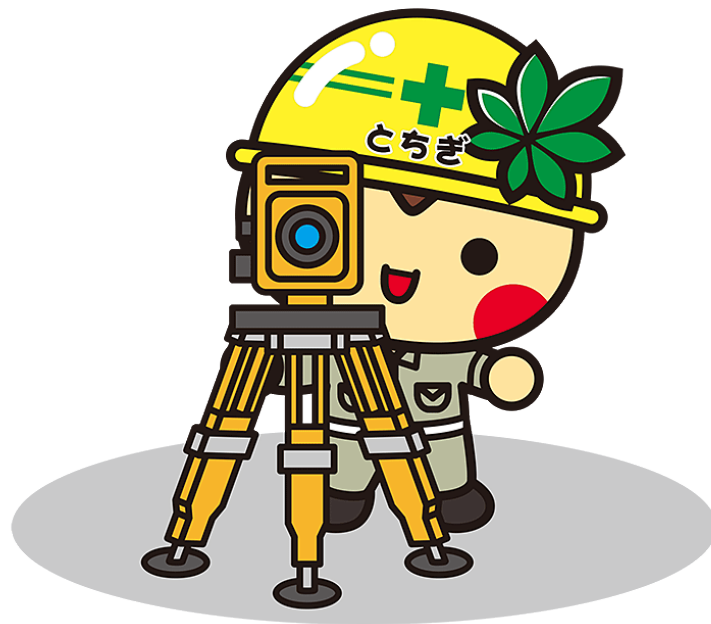


tochino (トチノ)



研修中の様子

(安足農業振興事務所)



(2) 意欲ある人材の参入促進

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

②-1 女性が活躍する環境づくり

○ 農村地域活性化シンポジウムを開催

- 令和5(2023)年2月、「女性の力で広がる農村共同活動」をテーマとした“農村地域活性化シンポジウム”を開催しました。
- 宇都宮大学西山教授による基調講演のほか、共同活動を女性が中心となって再開した経緯や、女性目線による商品開発やイベント開催、女性のための農機具講習会などについて、事例発表やパネルディスカッションが行われました。
- シンポジウムには約280名が参加し、女性が関わることによる活動の広がりや地域活性化の可能性について理解を深めました。



パネルディスカッションの様子



会場の様子

(農村振興課)

○ とちぎ農業女子トーク&カフェ

- 栃木県は、令和4(2022)年8月に女性の農業への参画を促進する「第1回とちぎ農業女子トーク&カフェ」を開催しました。
- 県内の女性農業者や異業種従事者、大学生、そして本県出身の女優・モデルである石川恋さんの計10名が参加し、農業の魅力の発信や女性が働きやすい環境づくりなどについて意見を交わしました。
- 第2回は10月に開催し、本イベントで出された意見を踏まえ、県では体験機会の充実や多様な農業参画への支援、労働環境の改善などに取り組んでいきます。



農業女子トーク&カフェ



PRポスターと石川恋さん

(経営技術課)

(2) 意欲ある人材の参入促進

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

②-2 女性が活躍する環境づくり

○ 女性農業者によるアグリビジネスモデルの創出

- 女性農業者グループを対象に、農業経営や地域農業の課題解決に向けたアグリビジネス構想を公募し、構想実現に向けた取組を支援しています。
- 県内の女性農業者が県産米の振興を目的に、交流グループ「米's(マイズ)」をつくり、県産米の魅力を伝えるための販売会や、「みりん」の商品開発などに取り組んでいます。
- こうしたグループ活動への支援を通して、女性ならではの感性やアイデアを生かし、活躍できる環境づくりを促進していきます。



新米販売会



ギフトセット(みりん入り)
(経営技術課)

○ かみつが農業女子ネットワークの活動推進(上都賀地域)

- 女性農業者がより一層活躍し、経営に参画できる環境整備を進めるため、令和3(2021)年12月から意欲ある女性農業者6名によるネットワーク「かみつが農業女子」の活動が開始しました。
- SNSを活用して情報交換を実施し、メンバーの課題解決を支援しました。また、交流会や雇用に関する研修会を開催し、経営参画の実践を支援しました。
- メンバーの拡充を図るとともに、SNSを活用したミーティングや研修会・交流会をとおして、引き続き女性の経営参画を支援していきます。



かみつが農業女子結成



交流会の様子
(上都賀農業振興事務所)

(2) 意欲ある人材の参入促進

②-3 女性が活躍する環境づくり

○ 農村女性が活躍する環境づくり(農村女性の経営力向上)(芳賀地域)

- 女性農業者の主体的な経営参画を促進するため、先進事例を学ぶ研修会・交流会を開催しました。
- 農村女性経営力向上研修会では、畜産農家に生まれた女性がジェラートショップを開店した事例(益子町)や、野菜の契約栽培に加え、6次産業化や農福連携に取り組む事例(市貝町)について学びました。
- 農村女性地域交流会では、人と施設に先行投資してトマトのブランド化を実現した事例(水戸市)や、外国人実習生やパートに配慮した職場環境づくり(真岡市2事例)について学び、意見交換を行いました。



芳賀地区農村女性
経営力向上研修会



芳賀地区農村女性交流会
(事例発表)

(芳賀農業振興事務所)

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

○ 栃木県南部地方土地改良事業推進協議会で女性職員研修会を開催(下都賀地域)

- 令和4(2022)年11月15日に栃木県南部地方土地改良事業推進協議会主催による第2回女性研修会が開催されました。
- 研修会には、下都賀及び安足地域の土地改良区や関係機関の女性職員が参加し、心と体の健康セミナーや女性リーダーの講演のほか意見交換会も行なわれ交流を深めました。
- 今後は、より一層の情報交換や問題共有により、女性職員の益々の活躍が期待されます。



健康セミナーの様子



女性リーダー講演の様子

(下都賀農業振興事務所)

(2) 意欲ある人材の参入促進

②-4 女性が活躍する環境づくり

○ 「塩南女子会」のネットワーク拡大・強化の取組(塩谷南那須地域)

- 若手女性農業者で構成する塩南女子会では、活動テーマ毎に他地域や他組織とつながり、自主的な活動が展開されていますが、ネットワークの拡大を図り、活動への参加を誘導し支援しました。
- コラボ商品の開発や販売、様々なマルシェへ参加し、その経験を個人や地域の課題解決の資としました。
- 塩南女子会の活動を通じ、次代のロールモデルを育成するとともに情報発信し、次世代の女性を確保することにより、地域の活性化を図っていきます。



みりんを試作し、加工品の商品化へ展開



百貨店にマルシェ出店
(塩谷南那須農業振興事務所)

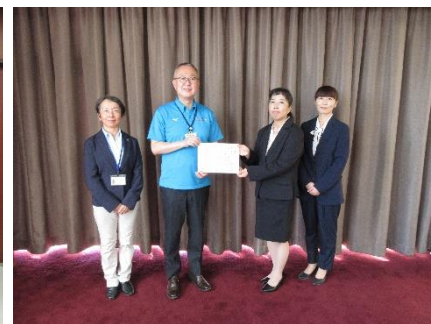
新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

○ 女性の活躍する社会を目指し、農業委員等への女性登用を推進(安足地域)

- 安足地区農村女性会議では、女性が活躍できる場を増やしていくため、農業委員・農地利用適正化推進員への女性登用等について、足利市・佐野市市長、市議会議長、農業委員会会長への要請を行いました。
- 佐野市では、継続して2名の女性農業委員が誕生し、足利市でも2名の女性が立候補しています。
- ジェンダーフリーの社会を目指し、今後も引き続き、土地改良区や農協理事への女性登用に向けた要請活動を行っていくこととしています。



足利市長への要請



佐野市長への要請

(安足農業振興事務所)

(2) 意欲ある人材の参入促進

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

③-1 多様な人材の確保・育成

○ 多様な人材が農業で活躍できる可能性の検討

- ひきこもりや特別支援学校の生徒等が農業分野で活躍するために必要なことを検討するため、ユニバーサル農業部門別検討会を開催しました。
- 検討会では、県内の福祉事業者等の事例発表を元に、多様な人材の農業参画の可能性について意見交換し、情報共有が図られました。
- 今後は、県内外でひきこもり等を受け入れる農業者やNPO法人等の事例調査や多様な人材が農業で活躍できる仕組みづくりに向けた関係機関・団体との意見交換を行っていく予定です。



ユニバーサル農業部門別検討会

(農政課)

○ 新たな草刈りの体制づくり

- 地域農業活動の中で大きな負担となっている草刈り作業について、「多様な人材の参画」と「作業の省力化」による新たな体制づくりを推進しています。
- 多面的機能支払や中山間地等直接支払の活動組織等を対象に、非農家や集落外からの参画に向けた話合いの支援や、作業の効率化及び安全性の向上につながる高機能草刈機の実演会を開催しました。
- 参加者(組織)の中には、草刈機の操作性や安全性を体験できたことから導入準備を始めているところもあるなど、新たな体制づくりが進められています。



活動組織等を対象とした
研修会の様子



高機能草刈機の実演会

(農村振興課)

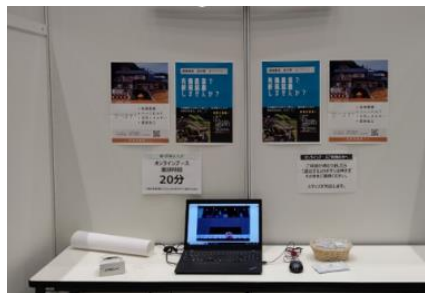
(2) 意欲ある人材の参入促進

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

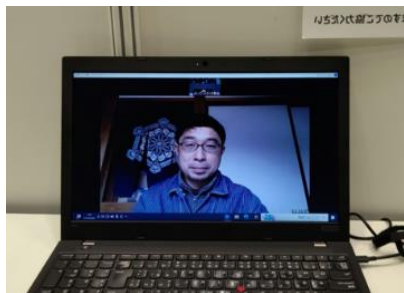
③-2 多様な人材の確保・育成

○ 「農」ある暮らしアドバイザーの認定

- 農村地域における半農半X実践希望者に対して、「農」に関する悩みや不安の解消に向けて助言等を行う「農」ある暮らしアドバイザー10名を認定しました。
- 令和4年度は、ワンストップ相談窓口や就農相談会によるオンライン相談に参加した相談者に対し、アドバイザーによる助言を実施しました。
- 令和5(2023)年度は、「農」ある暮らしアドバイザーの活動促進に向け、相談窓口のPRや研修会等を充実させて行く予定です。



オンライン相談の様子



アドバイザーによる相談対応

(農村振興課)

○ 農作業体験VR教材が農業高校に登場

- 「農業を学ぶ学生の就農意欲の喚起」や「時期・回数」の制約を受けない仮想体験の反復による技術習得」を目指し、令和3(2021)年度から“いちご”と“なし”を題材としたデジタル農業教材を製作しています。
- 農業大学校と農業関係高校を結んだオンライン授業において、完成したVR教材を使い“なし”の剪定作業を体験し、作業に対する理解を深めました。
- 今後は、完成したデジタル教材を各農業関係高校と農業大学校に導入し、就農意欲の喚起や技術習得に向けた活用を進めていきます。



VRを体験する学生



授業の様子

(経営技術課)

(2) 意欲ある人材の参入促進

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

③-3 多様な人材の確保・育成

○ 未来へつなぐとちぎ農業フォーラム2022を開催

- 県では、若者の就農意欲を喚起し、次代を担う農業人材の確保・育成を図るため、農業を学ぶ学生等を対象に、本県で意欲的に経営を展開する若手農業者との意見交換を行うフォーラムを開催しています。
- 令和4(2022)年度は、県内の農業を学ぶ学生、関係者等282名が参加し、若手農業者の事例発表及び学生とのパネルディスカッションを実施しました。
- フォーラム実施後のアンケート結果では、「農業に魅力を感じる」、「将来の職業として農業をやってみみたい」と感じる学生の割合が増加しました。



若手農業者の事例発表



パネルディスカッション
(経営技術課)

○ 基盤整備を契機とした梨団地等の園芸産地づくり

- 芳賀町の稲毛田地区では、ほ場整備により分散していた梨畑等を集約化するとともに、用排水施設の整備と併せて農道の整備を行い効率的な生産物の輸送等が可能となりました。
- また、稲毛田梨団地利用組合を設立し、ブランド梨「にっこり」の共同育苗、梨棚の設置、共同利用機械の導入等により、効率的な生産体制を整えました。
- 今後は、梨団地全域で新たな樹形を採用し、省力化と早期成園化を図り、農業者の収益性向上を目指していきます。



集約化された梨団地



整備された道路や排水路

(生産振興課・農地整備課)

(2) 意欲ある人材の参入促進

③-4 多様な人材の確保・育成

○ 基盤整備を契機としたいちごの産地づくり

- 地域農業の発展に向けて、海道地区は農地整備事業を契機としたいちご団地(南・北)の創設を目指しています。
- 地区外から募集した就農希望者を支援するため、海道いちご団地経営支援サポートチーム(土地改良区、県、市、市公社、JA)を設置し、研修先のあっせんや営農指導等を行っています。
- 令和5年9月に南団地の定植を予定しているとともに、北団地の創設に向けた準備を進めています。



整備されたほ場



就農希望者への説明会

(農地整備課)

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

○ 基盤整備を契機としたいちごの産地づくり

- 宇都宮市は、大谷石地下採掘場跡地の冷熱を活用して栽培するいちごの産地化に向けて、宇都宮市上駒生地内で、ほ場の大区画化や農道の整備等の基盤整備を実施しました。
- 担い手となる企業2社と地元関係者が事業実施主体となり、農地バンクを活用して地区内農地の約9割を集積し、令和4年4月から、計画しているハウスの一部を建設し、栽培を開始しました。
- 今後は、令和6年度までにハウス建設を完成させ、大谷夏いちごの産地づくりを進めていきます。



整備されたいちご団地



ハウスでのいちご栽培

(農地整備課)

(2) 意欲ある人材の参入促進

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

③-5 多様な人材の確保・育成

○ 企業参入で園芸産地を推進！（下都賀地域）

- 居酒屋チェーン店の経営者が、新型コロナウイルスの影響で従業員の働く場の確保等が厳しい状況にあったため、(株)とちのきファーム(農地所有適格法人)を設立し農業に参入しました。
- 令和4(2022)年4月に、産地づくり基本構想の承認を受け、労働力として元居酒屋従業員等7名＋パート社員が中心となり、約20haのねぎを栽培しています。
- 現在の出荷調整施設は借家で手狭になり、近い将来、自社の出荷調整施設の建設を計画しております。この新たな施設を核にし、更なる規模拡大を図りメガ産地を目指しています。



ねぎの定植



ねぎの出荷調整
(下都賀農業振興事務所)

○ 高機能草刈機デモンストレーションを開催（那須地域）

- 担い手の高齢化や後継者不足による労働負担の軽減を図るため、高機能草刈機の活用が有効な手段として期待されています。
- 令和4年12月、地域の活動組織を対象に高機能草刈機デモンストレーションが開催されました。参加者は実際に各種の高機能草刈機に触れながら意見交換を行うなど、関心の高さがうかがえました。
- 今後も実演会等を継続して実施、機器の導入を推進していきます。



トラクター取付
オフセットモアの展示



ラジコン式草刈機の実演
(那須農業振興事務所)